

Hitsujigaoka

会報 羊ヶ丘

Vo1.69

2011.7.31



ライオンズクラブ国際協会 331 - A地区

第2R・第2Z

札幌羊ヶ丘ライオンズクラブ

会長就任挨拶



会長 寺田 昭彦

歴史と伝統ある「札幌羊ヶ丘ライオンズクラブ」第25代会長にご推薦を頂き、その責任の重さを痛感し、身の引き締まる思いを致しております。

浅学菲才の私が会長職の大任を、一年間全う出来るか不安な処はありますが皆様のお力とご協力、そしてこれまでと同様、寛容なお心で共に一年間ご活動して頂けることを願う次第です。

今期の会長スローガンを

『25年の歴史に感謝し、新しい未来へ創造の前進』

といたします。

今期25周年を迎えることを、敢えて強調させて頂きました。この星霜が私たちの奉仕の心を育む基本だったことを考えると、言い古された言葉ではありますが「継続は力なり」を実感するものです。

先輩たちが築き上げてきた「札幌羊ヶ丘ライオンズクラブ」の歴史と伝統の灯を断じて絶やさず繁栄させていくことに微力ではありますが、力を尽くしてまいります。

当然のことではあります、次のステップを目指すとき、単なる歴史を踏襲するのではなく、新しい変化を自ら生み出す必要があります。次の節目となる30周年、あるいは40周年を迎えるときに、あの時が始まりだったと思えるような一年としたいと思えます。

私の会長スローガンを実践するために、行動指針として次の三つを掲げました。

1. ライオンズの歴史と伝統を学び、ライオンズ精神を互いに深める
2. 明るさと、楽しさを基調に運営する例会と奉仕活動
3. 友を招き、交流の輪を広げ、会員の増強に努める

私たちの組織の成り立ちを、もう一度振り返り「ライオンズとは」の意義をメンバー同士で強めていくことが必要と思われまます。

しかしながら、堅苦しい組織論にばかり終始していると日常の活動が委縮してしまいます。毎月行われる例会は楽しくなければなりません。集う楽しみ、語る喜びが相互の連帯を生みます。それが、自然な奉仕活動へと繋がっていくものと信じています。

組織の活性化を行うには、やはり会員の増強が必要となります。私たちの活動に共感し理解を示してくれる仲間を増やそうではありませんか。ライオンズクラブのメンバーが減少している状況に当クラブから歯止めをかける意気込みで進みたいと思っています。

何卒メンバーの皆様、関係各位には、友愛と相互理解の精神で、暖かいご指導、ご支援、ご協力をお願い申し上げまして会長の挨拶と致します。

幹事就任挨拶



幹事 山崎 光彦

いよいよ記念すべき年度、第25期が始まります。連綿と続いてきた札幌羊ヶ丘ライオンズクラブの歴史がここに四半世紀となって結実します。

今年の3月までは25周年記念事業を考えると、あれもしよう、この企画はどうだと喧々諤々の議論をしていました。

誰もが予想だにしなかった東日本大震災が発生し、全世界でライオンズ活動が一時停止する程の事態となってしまいました。私たちの25周年構想も思考停止の状態におかれました。

被災地では、亡くなられたライオンもいますし、職場や自宅を流出された仲間もおりまました。然し、直ぐに国内はもとより世界各地から救援の手が差し伸べられ復旧・復興に向けて走り出していることは周知の通りです。

然しながら、依然として緊急避難施設での暮らしを余儀なくされている方もいますし、放射能汚染も終息の兆しがみえません。

このような状況のもとで25周年記念の意味を考えた時、やはり災害義援に重点を置くべきとの結論に至りました。記念事業費に加え、会員の皆様方からも善意を募り、ウイサーブ基金を立ち上げました。

この基金は、他の義援組織を経由せずに直接被災者へ手渡せるような事業と致します。

目標額は、周年に因み250万円を予定しております。あらためて皆様のご協力をお願い致します。被災者の気持ちを思っただけの消費自粛は経済活性化につながらないとの論議が震災当初はありましたが、4ヶ月半を経過した今、被災地の経済活動は徐々にではありますが戻りつつあります。

それでも個人レベルでみた場合、支援が行き届いていない部分が多くあり、そのような方々の生活再建の手助けができるような用途に使わせて頂きたいと考えております。今一度ご協力をお願い致します。

クラブ運営の要として、幹事の職を担うことになり緊張感が増しております。照沼会長と一体となり、当クラブが発展するように頑張るべきと己に言い聞かせております。

昨年度は会計としての職務上、他クラブとの交流も幾つかありました。何処でも聞くことに、クラブ員の減少があります。

当クラブもその例に洩れません。何故、折角入会した素晴らしい組織ライオンズクラブを辞めてしまうのか、もう一度その要因を分析し、組織活性化とは何なのか、再考すべきと思っています。

理念を実践するためには、集団の力が必要となります。力はやはり数そのものです。照沼会長は30名の会員を目指すと言っています。質を伴った会員増を心がけることが肝要です。ともすれば、数が増えればとの風潮がありました。質的な向上を併せた組織拡大を目指すために一年間尽力したいと思いません。宜しくお願い致します。

会計・PR情報委員長就任挨拶



会計 L 菅原 崇

～ あいさつの大切さを自覚しよう ～

日常生活でも職場、ライオンズクラブ内でも人間関係を円滑にする第一歩は、気持ちの良い挨拶です。

挨拶の基本は、出会った者同士が顔と顔を合わせて、にこやかに言葉を交わすものです。

ところが最近は、挨拶の方法も様変わりを見せています。職場内の目と鼻の先に居る同僚同士が、携帯電話やパソコンのメールを通して画面上で挨拶を交わしている光景がしばしば見られます。

確かに便利なものですが、それに乗じる形で挨拶だけでなく生の声のやり取りもないがしろになっているようです。

ライオンズクラブの主体は人なのです。人が人らしい心を忘れないようにするためには努めて顔と顔を合わせて言葉を交わすことが大切です。

クラブ内でチームワークの向上を図り、円滑にウイサーブをすすめるためにも、顔を合わせ、言葉を掛け合い、心をつないで行きましょう。

再々登板の私ですが、各ライオンそして見角事務局員の力を借りて1年間を尽くしてまいります。ご協力の程宜しくお願い致します。

～ 会員減少への対処はPR活動から ～

再び三度、PR情報委員長を拝命することになりました。また一年間のお付き合いを宜しくお願い申し上げます。

何度も経験している役職ではありますが、未だに十分に全うしたと感ずることが出来ません。初めて就任したときは、流れに乗ったまま言われるままに駄文を書いていたのですが、そのうち如何にライオンズの活動を理解してもらえるか、本来の役務に気づかされました。

最近のライオンズクラブ活動をみると、会員減少に対する現実に目をそむけるわけには行きません。ともすれば内向きだったPR情報活動ですが、今後は外に向けライオンズ活動をもっと知ってもらう必要があります。そして興味を持った人達から問い合わせが殺到するような情報活動が不可欠と痛感します。

ホームページをさらに活用し、ライオンズをより周知して貰えるようにしたいと思っております。少なくとも、マンションやプロ野球の球団と混同されないように周知活動をする必要があるでしょう。

今までの反省を踏まえ、サバンナを縦横に駆け抜けるライオンその如く、あちこちに出没するPR活動ができたらと願っています。

一年間宜しくお願い致します。



PR情報委員長
L 井上 定幸

中国新幹線、やっぱり

7月23日、中国浙江省温州市で高速鉄道の衝突事故が発生した。いつか重大事故が起こるのではとの心配が現実のものとなった。事故原因を調査するのではなく、事故車両を穴を掘って埋める。まさに中国的発想と言える。その穴を掘っている重機が日立建機やコマツを始めとする日本製ばかり。少し溜飲の下がる思いがした。



情報隠しと日本国内では非難の嵐、しかし我が国の原発事故、偉そうに言えたものでもないだろう。

節電



ここ数日の暑さに耐えかねて扇風機を買ってきた。バッテリーでも動く節電タイプ。何故か正面にはLEDライトも付いている。当然のことながら中国製。国産の扇風機はデザイン的には優れているが価格は倍以上。悔しい。

これだけの猛暑でも、東電・関西電力エリアで電力は逼迫していない。「節電しろ」の号令一下、従順に言うことを聞く国民性のなせる業。この俺までも従ったかと思うと情けない。

こんなことなら本当に原発不要論が幅を利かすことになる。原発をインフラ輸出の柱にしようとの考えとは矛盾しないのか。日本中の地面をソーラーパネルで埋め尽くそうとしているのかね。

交通事故

これからの季節、北海道では交通事故が多発する。夏休みに入り、遠出する機会が増えるとともに、本州からの観光客が北海道の広い道路を高速道路のようだと面白半分にはぶっ飛ばして事故を起こすケースもある。この写真は7月9日に別府市の大分自動車道で野球部監督が死亡した事故車。運転者は自動車運転過失致死容疑で逮捕された。



飲酒運転もなくなるな。飲んだら乗るな。家族を泣かせてはならない。ご同輩大いに注意を。

日本沈没

7月26日、SF作家の小松左京さんが亡くなったとの報道があった。昭和48年に発表された「日本沈没」で余りにも名高い。

衝撃的タイトルでベストセラーになった。東日本大震災に通じるものがあるのかとの感が出て、再度読もうと思い書店に尋ねたが、8月にならなければ入荷しないと言う。同好の士の多いことを知る。

地震が発生すると、テレビで解説されるプレートテクトニクス理論なるものも、初めてこの本で知った。とにかく面白かったことは記憶にあるが、話の筋立ては全く覚えていない。俺自身は記憶沈没だ。



ヘレンケラー



先日のキャビネットPR情報委員長会議でヘレンケラーのスピーチを収録したCDが配られた。誰でも知っているヘレンケラー女史ではあるが、スピーチを聞いたことのある人は稀だろう。1925年6月30日に開催された第9回ライオンズクラブ国際協会世界大会でのスピーチである。字幕付きなので、内容は理解できる。このスピーチが元になって、ライオンズクラブのLCIFが発足したとも聞く。近々当クラブのホームページにもアップする予定。その前に聞いてみたいと思われる方は、「ヘレンケラー」で検索すると見る事ができる。

新千歳空港に温泉

新千歳空港に行く度に「空港が変わる」とのキャンペーン横断幕を見ていた。何が変わるのか気になっていたところ、7月15日に温泉や映画館等々のアミューズメント施設がオープンしたとのこと。

先週末にでも、飛行機の離発着を見ながら温泉に浸かろうと家人にその話をした。当日、急にパソコンの具合が悪くなり、部品を求めて市内のパソコンショップを渡り歩いた。幸いにもパソコンは回復したが、家人の機嫌は回復しないまま。女房殿用のリカバリーソフトを探し歩かなくてはならない。



25年の歴史に感謝し、新しい未来へ創造の前進



スローガンも新しく



新会長 L 照沼の挨拶



続投ライオンテーマー L 橋本



L 井上のライオンズの誓い



入会挨拶 L 千葉



表情和やかにウイサーブ L 岩本



張り切るテールツイスター L 上西

第25期出航例会

2011. 7. 12

これからが夏本番と言うべき7月12日、第25期の出航例会が開催されました。記念すべきクォーターの幕開けです。新会長L照沼に、会員の全てからの期待が注がれています。

会長スローガンには、25周年を迎える意気込みが込められています。

『25年の歴史に感謝し、新しい未来へ創造の前進』

日々の積み重ねが、活動の強固な基礎となり明日への活力を造りだす源泉となることを標榜しています。単に過ぎし年月を偲ぶのではなく、転換点と捉えた今期を全会員が一致して協力、邁進していくべきと思います。

会長挨拶では、今期に賭ける熱い思いが語られました。また、モットーとして発表された活動の指針も一つ一つ、参加した会員の奮起を漲らせるものでした。

普段余り人を褒めることのない今期のテーマーL橋本から絶賛される程の素晴らしいスローガン発表でした。

さらに異例なことがありました。出航例会に新入会員の入会式が併せて行われる、当クラブ始めて以来の出来事です。以前、事情があって退会していたL千葉秋彦が再入会してくれたのです。出席者一同で大歓迎です。

彼が在籍していた期間の献身的な活動を知る者にとっては、まさに一騎当千の強者を迎え入れた心境と思われれます。今後の活躍が大いに期待されます。

今期最初の例会ですから、重要な事柄の報告や決議もありました。CN25周年記念例会・祝賀会の実行委員会組織表が発表され、実行委員長にはL竹中志郎が就任しました。20周年に続き、面倒な役割を快くお引き受け頂き感謝に堪えません。実行委員全員でサポートさせていただきます。

主として東日本大震災被災者支援のためのウイサーブ基金も正式に発足しました。多くの災害に私たちの善意が結集されていく意気込みを込めて命名したこの基金がいつまでも継続されることを願ってやみません。

運営方針・役員名簿・委員会組織・終始予算が決議されクォーターの第一歩が記されました。緊張感が漂う今期第1回の例会ではありましたが、和やかな雰囲気も感じられる船出とはなりました。

25年の歴史に感謝し、新しい未来へ創造の前進



クラブバナーも揃えた会場



会長席で緊張する照沼会長



ガバナーL 庵原の運動方針発表

地区ガバナー公式訪問

2011.7.26

例年は8月に行われる地区ガバナー訪問例会が、今年は年度開始早々の7月26日に札幌グランドホテルで開催されました。

会場が暗転し、大きな拍手に迎えられて地区ガバナーL 庵原宏章が入場します。舞台の会長席に座る当クラブ会長L 照沼司も、ガバナー同様に緊張している様子が見てとれます。

出席クラブ紹介で、照沼会長の「ウイサーブ」の発声によるローアは他クラブには見られない独特のものとして会場で異彩を放ちました。

ガバナーの運営方針が発表され、スローガン「英知の奉仕と組織の活性化」について、実行キーワードを引用して説明されました。

主眼を置くのは、若い会員や女性会員の増強を行うことであり、運営費用の見直しと低廉化に努めることです。年度ごとに言われている会員増強について、今期は新しい視点から実行されることを期待します。

ガバナーの運営方針のあと、キャビネット幹事報告が行われ公式訪問が終了し、懇親会へとプログラムは移っていきます。

今年はアトラクションはありません。まさに、キーワードの2番目「運営費用の見直しと低廉化」が実施されています。エンターテイメントが絶対必要と感じている訳でもありませんが、少し寂しく盛り上がり欠けている気がしました。

各テーブルから歓声があがります。ガバナーがキャビネット役員とともに各クラブに挨拶に回り始めました。これ程間近にガバナーを見るのは、それ程多くの機会は無いと思われま。記念写真に納まり、会員一同ニコリでした。

出席者全員が手をつなぎ、「また会う日まで」の斉唱が始まり、懇親会も終宴となりました。

今後一年、当クラブもガバナーズローガンに基づき、組織の活性化に努めることしたい思っております。

出席した会員の最後のつぶやき「バンケッターの女性にビールを注いでもらいたかったな～」には、実感がこもっておりました。



宴を待つ3人



会長席から脱出? 会長L 照沼



慣れてますねL 千葉



手をつなぎ「また会う日まで」



PR委員長がんばる

L井上 定幸

今期最初の会報をお届けします。紙面は役員挨拶と、出航例会ガバナー公式訪問が主体となりました。堅苦しい内容になってしまったかも知れません。

紙面構成を少しだけ変えました。ヨタ話を挨拶の後に移動させました。「ちょっと一服」と感じて貰えたら有難いです。

私自身、何度目かのPR委員長です。今更編集後記タイトルの「PR委員長がんばる」でもないという気がします。何とか面白い紙面作りを心がけて行きたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。

今期の国際会長は香港出身のLウインケン・タムです。テーマが「I BELIEVE～信じる」。信じることができる事が少ないからこそ、Believeに重みがあります。

東日本大震災で被災者が塗炭の苦しみを味わっている時に、政治は停滞し、原発事故では「想定外」を繰り返す。挙句の果てに、やらせメール。何おか言わんや。

仲間と自分を信じることにしましょう。政権交代を信じた国民は馬鹿を見たのでしょうか。

でも“I believe”と言ってみよう。